



別宮 お白石持行事



しっておきたい神宮・別宮のこと ふたつの「つきよみさん」と 「やまとひめさん」

別宮とは、内宮、外宮それぞれに属し、両正宮について重んじられています。お白石奉獻を実施するのは、伊勢にある3つの別宮。市民との縁も深いお宮です。

内宮別宮

「月読宮」 つきよみのみや

(伊勢市中村町)

石灯籠が並ぶ御幸道路沿にある月読宮は、内宮の別宮。天照大御神の弟神にあたる月の神様「月読尊」が祀られています。

そして、月読尊の魂を祭神とする月読荒御魂宮、天照大神、月読尊の両親神である伊弉諾尊を祭神とする伊佐奈岐宮、伊弉冉尊を祭神とする伊佐奈弥宮の3社があり、小規模ながら神明造の社殿が4つ並ぶところが特徴です。ほかのお宮の遷宮では、右から左、もしくは左から右(東西)に移動しますが、並んで建てられているため、同宮では前後(南北)に行われるのです。

ご遷宮前のお白石持は今年9月に行われ、担当するのは、地域の6町からなる「四郷」。お白石を載せた川ソリを用いるソリ曳です。

内宮別宮

「倭姫宮」 やまとひめのみや

(伊勢市楠部町)

倭姫宮は、外宮と内宮のちょうど中間、微古館などとともに倉田山丘陵にあり、内宮の別宮のなかでも特別のお宮です。

お祀りする倭姫命は、天皇の皇女で、2代目の斎王として天照大御神の御杖代(神様の杖代わり)となつてご奉仕する)となり、大和の国から伊賀や近江など各地を巡つた後、伊勢に入り鎮座を決定し、現在の地に皇大神宮(内宮)を創建しました。

大正12年(1923年)に創設された、神宮の中では新しいお宮であり、地元の崇敬者でつくられた奉賛会により大切にされています。明治以前は倭姫命を祀る神社はなく、明治時代、地元市民有志から倭姫命を祀る神社創立の声が高まり、その後、宇治山田市となつてからは市長が先頭にたち倭姫宮

創立の許可を国会に請願、大正10年(1921年)には内宮別宮としての創立が決定したという経緯をもつ、まさに伊勢市民の熱意により創立した特別な別宮といえます。

今年11月にお白石奉獻が行われる倭姫宮は、その経緯から、内宮領の宇治二軒茶屋、長峰連合、四郷二見連合がソリ曳、そして外宮領ながら、倭姫御陵があり、お宮に縁の深い俊町が奉曳車で参加します。

外宮別宮

「月夜見宮」 つきよみのみや

(伊勢市宮後)

漢字表記は違いますが月読宮と同じ神、「月夜見尊」が祀られている月夜見宮は外宮の別宮です。外宮の宮域外にある唯一の別宮です。

地元では、親しみを込め「つきよみさん」と呼ばれ、外宮北御門から北へ約300m、神様が通われたという伝説が残る神路通りがまっすぐに正面につながっています。月夜見宮はひとつの社殿に月夜見尊と、その魂の月夜見尊荒御魂のふたつの神さまを祀っています。

月夜見宮のお白石奉獻は、所在地である宮後が実施します。

2月11日

別宮御白石奉獻団連合会結成式を開催



伊勢の3つの別宮(月読宮、倭姫宮、月夜見宮)の遷宮を控え、別宮御白石奉獻団連合会結成式が開催されました。会場となった伊勢商工会議所4階中ホールには、御遷宮対策委員会会長である鈴木伊勢市長ほか、関連奉獻団の代表者、御遷宮対策委員等が集い、来賓として参列いただいた神宮司庁総務部次長杉谷正雄氏から「別宮の遷宮が第62回神宮式年遷宮の一区切りと考えられている。よろしくお願ひしたい」というお言葉をいただきました。内宮、外宮の行事同様、伝統の継承を責務として実施に向かつて、ここに連合会が結成されました。



別宮お白石持奉曳コース



4つのお宮が並ぶ月読宮